

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」
基盤的研究・人材育成拠点事業 第 3 期中期計画

1. 大学・機関名／代表者氏名（所属機関・役職）：

大学・機関名：政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策プログラム
責任者：林 隆之 プログラム・ディレクター／教授

2. 中期計画期間

令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日

3. 第 3 期期間（R3～R7 年度）において拠点として達成すべき目標・計画

G-3-1. 政策研究大学院大学の科学技術イノベーション政策プログラム（GiST プログラム）では、第 3 期期間において、第 1 期及び第 2 期に引き続き、多様な学問分野を統合して、社会的課題を的確に捉える能力及び科学的なアプローチを用いて、科学技術イノベーション政策の企画・立案、遂行、評価、改善を行うことが出来る能力を持つ人材を育成することを目標に掲げ、博士課程、修士課程、短期プログラムの 3 種類の教育プログラムの取組を実施する。政策研究を重点とする大学院大学に置かれた拠点として当初より博士課程、修士課程を行ってきたが、第 2 期終盤より修士課程 2 年制への移行や平日夜間・土曜開講などの改革を行い、また、短期プログラムを開始した。第 3 期において、このような取組が定着するように運営し、科学技術イノベーション政策に関する多様な専門性を有する教員群により幅広い人材育成を維持し、国内外の多様なセクターの人材育成のニーズに対応していく。

政策研究大学院大学は「総合拠点」として採択されており、当該分野について総合的な視点での教育研究活動を行い、学位プログラムを運営することが当初より期待されている。たとえば、大学等の基礎研究にかかる政策、知的財産権等の知識普及にかかる政策、民間企業のイノベーション政策、発展途上国のイノベーションや STI for SDGs、科学技術外交、エネルギー政策など、今後も総合的な視点から拠点を運営していく。

G-3-2. 第 2 期中間評価での「今後に向けた取組を加速的に進めていくことが求められる」との指摘に対しては、補助事業終了後の教育プログラムの継続を念頭において、コアカリキュラム／コアコンテンツの進展状況、政策状況や入学生のニーズを踏まえつつデータサイエンス手法やデジタルトランスフォーメーション政策などニーズの高い教育内容を取り込むなどにより教育内容を適宜改善し、教育プログラムの履修生の安定的な確保に努める。

G-3-3. また、第 2 期中間評価で示された教育面での他拠点との連携への期待に対応し、事業終了後を見据え、運営委員会等の場で他拠点の事業終了後の教育実施上の課題等を共有し、他拠点からの要請や必要性がある点についてその実現に向けて協力し、教育面での他拠点や関係機関との相互補完的・互恵的な協力関係の構築に努める。

G-3-4. GiST における研究活動については、科研費等の外部資金や外部と連携した調査研究活動を実施して、各教員の専門性を発揮しうる基盤的な研究を実施する。また、共進化実現プロジェクト等の SciREX 事業における研究に積極的に取り組む。さらに、共進化実現プロジェ

クトにおける行政官との協働や政府の委員会等での説明などにより研究成果の政策形成への貢献に努める。

G-3-5. 拠点間共同で学生調査を実施するとともに、サマーキャンプ、コアコンテンツ編集委員会、行政官研修等の SciREX センターの活動に参画して他の人材育成拠点との連携を深める。

G-3-6. ネットワーク構築や研究成果の発信等を目的として、GiST セミナーを開催するとともに、ウェブサイトや SNS 等のネットワーキング・情報提供の場を整備・拡充する。また、教員のみならず学生による学会等での研究成果発表も推進していく。

4. 事業終了後を見据えた計画

G-4-1. 補助事業終了後も「科学技術イノベーション政策」の修士課程・博士課程を維持し、そのために必要な教職員等の体制の確保に努める。また、短期履修証明プログラムも受講者のニーズ等を確認しつつ、原則継続する。教育内容について、5年間の共進化プロジェクトの成果、コアカリキュラム／コアコンテンツの進展状況、政策状況や入学生のニーズを踏まえつつデータサイエンス手法やデジタルトランスフォーメーション政策などニーズの高い教育内容を取り込むなどにより教育内容を適宜改善する。これらを通じて、教育プログラムの履修生の安定的な確保に努める。

G-4-2. 事業終了後を見据え、運営委員会の場合などで他拠点の事業終了後の教育実施上の課題等を共有し、他拠点からの要請や必要性がある点についてその実現に向けて協力し、教育面での他拠点や関係機関との相互補完的・互恵的な協力関係の構築に努める。

G-4-3. プログラムの維持に向けた必要な学内的な調整を図るとともに、履修生からの受講料の徴収等により自己収入の確保に努める。また、外部資金の確保に努め、運営費交付金とあわせて必要な担当教職員の雇用財源の確保を図る。

G-4-4. GiST における研究活動については、科学研究費助成事業や外部機関からの受託研究等の研究費により、各教員の専門性を発揮しうる研究や政策への貢献を重視した研究を継続して実施する。

5. 事業終了以降の科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」への関わり方の展望

G-5-1. 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」に係る学位プログラムを維持し、研究者及び実務家を継続して輩出する。

G-5-2. 修士・博士課程ならびに短期教育プログラムを含めた修了生のネットワーク組織をSNSなどを活用して構成し、随時に情報共有や人材交流ができるように充実させる。

G-5-3. 科学研究費助成事業への応募や外部機関からの受託研究等により外部研究費の確保に努め研究を実施し、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」に関して研究面で貢献する。

G-5-4. 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」に深く関係する学会の活動に教員が積極的に参加する。

G-5-5. 教育面での他拠点や関係機関との相互補完的・互恵的な協力関係の維持に努める。

6. 基盤的研究・人材育成拠点としての個別の目標

(1) 人材育成

(注：末尾 (G-3-1.) は3章記載との関係を示す)

「3. 第3期期間 (R3～R7年度) において拠点として達成すべき目標・計画」の人材育成関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における人材育成プログラムを継続していく。

- ・ 第2期終盤に行った修士課程2年制への移行や平日夜間・土曜開講などの、社会人学生の履修環境の整備を持続するとともに、履修環境や教育内容の学生からのニーズを随時ヒアリングすることにより、博士課程及び修士課程の教育プログラムの取組を実施し、社会人学生を中心として修士課程学生を年間3～5名以上、博士課程学生を年間2～3名以上受け入れるとともに、修了生の輩出を図る。(G-3-1.)
- ・ 令和2年度から開始した短期プログラムである「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を継続し、安定的な履修者を確保するとともに、短期プログラムの履修を契機とした課程プログラムへの就学希望者の増加を図っていく。(G-3-1.)
- ・ 人材育成プログラムの就学・履修者等の安定的確保のため、国の府省・地方公共団体・研究開発法人等関係機関への広報を継続するとともに、民間企業・民間団体へのプログラムのアピールに努める。(G-3-2.)
- ・ コアカリキュラム編集委員会の活動に GiST 教員が貢献する。(G-3-2)
- ・ 拠点間共同プログラムとしての各拠点の協力を得て、学生調査を実施する。(G-3-5.)

- ・ 拠点間共同プログラムとしてのサマーキャンプの実施、行政官研修の実施に GiST 教員が貢献するとともに、拠点間共同プログラムとして実施してきたサマーキャンプ等の在り方について他拠点とともに検討する。(G-3-3.) (G-3-5.)

【効果測定に関する KPI】

- ・ 修了数：博士 1～2 名、修士 3～5 名／各年度
- ・ サマーキャンプへの GiST からの参加学生数 5～8 名

【自立化進捗に関する KPI】

- ・ 受入数：博士 2～3 名、修士 3～5 名／各年度
- ・ 短期プログラム受講生数：15 名程度／各年度
- ・ SciREX 事業費で雇用している教員のうち、無期雇用する教員の数

(2) 研究・基盤

「3. 第3期期間 (R3～R7 年度) において拠点として達成すべき目標・計画」の研究・基盤関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における研究活動を継続していく。

GiST 教員による基盤研究の推進のため、科研費等の外部資金や外部と連携した調査研究活動を実施して、GiST に所属する教員の専門領域 (例えば大学や基礎研究にかかる政策、知的財産権等の知識普及にかかる政策、民間企業のイノベーション政策、発展途上国のイノベーションや STI for SDGs、科学技術外交、エネルギー政策等) の研究活動を実施する。(G-3-4.)

【効果測定に関する KPI】

- ・ 外部資金 (科研費、委託研究費等) 件数：2～3 件程度／各年度
- ・ 教員や学生による研究成果の発表件数

【自立化進捗に関する KPI】

- ・ 外部資金 (科研費、委託研究費等) 件数：2～3 件程度／各年度
- ・ 教員や学生による研究成果の発表件数

(3) 共進化

「3. 第3期期間（R3～R7年度）において拠点として達成すべき目標・計画」の共進化関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における共進化を推進していく。

- ・ GiST として、共進化実現プロジェクト等の SciREX 事業における研究に積極的に取り組むことにより、共進化に貢献する。(G-3-4.)
- ・ 共進化実現プロジェクトにおける行政官との協働や政府の委員会等での説明などにより研究成果の政策形成への貢献に努める。(G-3-4.)

【効果測定に関する KPI】

- ・ 共進化実現プロジェクト（件数）：2件／各年度

【自立化進捗に関する KPI】

- ・ 審議会委員など教員が国内外の行政府等とともに活動する件数

(4) ネットワーキング

「3. 第3期期間（R3～R7年度）において拠点として達成すべき目標・計画」のネットワーク関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降におけるネットワークを維持していく。

- ・ 運営委員会の場合などで他拠点の事業終了後の教育実施上の課題等を共有し、他拠点からの拠点間連携の要望や必要性がある点についてその実現に向けて協力し、単位互換、科目の共同開講、講師の派遣・招へい等の教育面での他拠点との相互補完的・互恵的な協力関係の構築に努める。(G-3-3.)
- ・ 拠点間共同プログラムとしてのサマーキャンプに GiST 教員及び学生が参加し、ネットワーク構築を進める。(G-3-3.) (G-3-5)
- ・ セミナー講師及び参加者とのネットワーク構築、GiST 教員の研究成果の普及、学生の人材育成、最新の研究動向の把握などを目的に、GiST セミナーを開催するとともに、ウェブサイトや SNS 等のネットワーク・情報提供の場を整備・拡充する。

【効果測定に関する KPI】

- ・ サマーキャンプへの GiST からの参加学生数 5～8名程度（注（1）と同じ）
- ・ サマーキャンプへの GiST からの参加教員数 3～5名程度
- ・ GiST セミナー開催回数：2～3回程度
- ・ 修了生の修了生ネットワークへの参加者数

【自立化進捗に関する KPI】

- ・ 修了生の修了生ネットワークへの参加者数

7. 年度計画及び達成目標

R3 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士課程及び修士課程の教育プログラムの取組を実施する。 ・ 「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施する。 ・ 人材育成プログラムの広報に努める。 ・ コアカリキュラム編集委員会の活動に GiST 教員が貢献する。 <p>・ 学生調査を実施する。</p> <p>・ サマーキャンプの実施に貢献する。</p>
		<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部からの研究費を得て研究を実施する。
		<p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクトの研究を実施する。 ・ 共進化実現プロジェクトにおける行政官との協働や政府の委員会等での説明などにより GiST による研究成果を政策形成プロセスへ提供する。
		<p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各人材育成拠点で提供している講義等の基礎的な情報をコアコンテンツも利用しながら体系的に整理する。 ・ サマーキャンプに GiST 教員及び学生が参加する。 ・ GiST セミナーを開催するとともに、ウェブサイトや SNS 等のネットワーキング・情報提供の場を整備・拡充する。
	達成目標	<p>(1) 人材育成</p> <p>人材育成について、博士課程及び修士課程の教育プログラム、「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施するとともにサマーキャンプの実施に貢献し、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受入数：博士 2～3 名、修士 3～5 名 ・ 修了数：博士 1～2 名、修士 3～5 名、 ・ 短期プログラム受講生数：15 名程度 ・ サマーキャンプへの GRIPS からの参加学生数 5～8 名程度 <p>(2) 研究・基盤</p> <p>研究・基盤について、外部からの研究費を得て研究を実施することを目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部資金（科研費、委託研究費等(新規+継続)）件数：2～3 件程度

		<p>(3) 共進化 共進化について、共進化実現プロジェクトの研究を実施することを目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共進化実現プロジェクト（件数）：2件
		<p>(4) ネットワーキング ネットワーキングについて、サマーキャンプへの参加、GiST セミナーの開催を目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> サマーキャンプへの GiST からの参加学生数 5～8名程度（注（1）と同じ） サマーキャンプへの GiST からの参加教員数 3～5名程度 GiST セミナー開催回数：2～3回程度 修了生の修了生ネットワークへの参加者数
R4 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士課程及び修士課程の教育プログラムの取組を実施する。 「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施する。 人材育成プログラムの広報に努める。 コアカリキュラム編集委員会の活動に GiST 教員が貢献する。 学生調査を実施する。 サマーキャンプの実施に貢献する。
		<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの研究費を得て研究を実施する。
		<p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> 共進化実現プロジェクトの研究を実施する。 共進化実現プロジェクトにおける行政官との協働や政府の委員会等での説明などにより GiST による研究成果を政策形成プロセスへ提供する。
		<p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き各人材育成拠点で提供している講義等の基礎的な情報の体系的な整理を継続・更新する。 教育実施上の課題に関し他拠点からの拠点間連携の要望や必要性がある点について、その実現に向けて協力する。 サマーキャンプに GiST 教員及び学生が参加する。 GiST セミナーを開催するとともに、ウェブサイトや SNS 等のネットワーキング・情報提供の場を整備・拡充する。
	達成目標	<p>(1) 人材育成 人材育成について、博士課程及び修士課程の教育プログラム、「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施するとともにサマーキャンプの実施に貢献し、本年度において以下の達成を目指す。</p>

		<p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受入数：博士 2～3 名、修士 3～5 名 ・ 修了数：博士 1～2 名、修士 3～5 名、 ・ 短期プログラム受講生数：15 名程度 ・ サマーキャンプへの GRIPS からの参加学生数 5～8 名程度
		<p>(2) 研究・基盤</p> <p>研究・基盤について、外部からの研究費を得て研究を実施することを目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部資金（科研費、委託研究費等(新規+継続)）件数：2～3 件程度
		<p>(3) 共進化</p> <p>共進化について、共進化実現プロジェクトの研究を実施することを目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクト（件数）：2～3 件
		<p>(4) ネットワーキング</p> <p>ネットワーキングについて、サマーキャンプへの参加、GiST セミナーの開催を目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サマーキャンプへの GiST からの参加学生数 5～8 名程度（注（1）と同じ） ・ サマーキャンプへの GiST からの参加教員数 3～5 名程度 ・ GiST セミナー開催回数：2～3 回程度 ・ 修了生の修了生ネットワークへの参加者数
R5 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士課程及び修士課程の教育プログラムの取組を実施する。 ・ 「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施する。 ・ 人材育成プログラムの広報に努める。 ・ コアカリキュラム編集委員会の活動に GiST 教員が貢献する。 ・ 学生調査を実施する。 ・ サマーキャンプの実施に貢献する。 <p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部からの研究費を得て研究を実施する。 <p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムの研究を実施する。 ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムにおける行政官との協働や政府の委員会等での説明などにより GiST による研究成果を政策形成プロセスへ提供する。

	<p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に引き続き各人材育成拠点で提供している講義等の基礎的な情報の体系的な整理を継続・更新する。 ・ 教育実施上の課題に関し他拠点からの拠点間連携の要望や必要性がある点について、その実現に向けて協力する。 ・ サマーキャンプに GiST 教員及び学生が参加する。 ・ GiST セミナーを開催するとともに、ウェブサイトや SNS 等のネットワーキング・情報提供の場を整備・拡充する。
達成目標	<p>(1) 人材育成</p> <p>人材育成について、博士課程及び修士課程の教育プログラム、「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施するとともにサマーキャンプの実施に貢献し、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受入数：博士 2～3 名、修士 3～5 名 ・ 修了数：博士 1～2 名、修士 3～5 名 ・ 短期プログラム受講生数：15 名程度 ・ サマーキャンプへの GRIPS からの参加学生数 5～8 名程度
	<p>(2) 研究・基盤</p> <p>研究・基盤について、外部からの研究費を得て研究を実施することを目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部資金（科研費、委託研究費等(新規+継続)）件数：2～3 件程度
	<p>(3) 共進化</p> <p>共進化について、共進化実現プログラムの後継プログラムのプロジェクトの研究を実施することを目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクト（件数）：2～3 件
	<p>(4) ネットワーキング</p> <p>ネットワーキングについて、サマーキャンプへの参加、GiST セミナーの開催を目標とし、本年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サマーキャンプへの GiST からの参加学生数 5～8 名程度（注（1）と同じ） ・ サマーキャンプへの GiST からの参加教員数 3～5 名程度 ・ GiST セミナー開催回数：2～3 回程度 ・ 修了生の修了生ネットワークへの参加者数

R6-7 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士課程及び修士課程の教育プログラムの取組を実施する。 ・ 「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施する。 ・ 人材育成プログラムの広報に努める。 ・ コアカリキュラム編集委員会の活動に GiST 教員が貢献する。 ・ 学生調査を実施する。 ・ サマーキャンプの実施に貢献する。 <p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部からの研究費を得て研究を実施する。 <p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムの研究を実施する。 ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムにおける行政官との協働や政府の委員会等での説明などにより GiST による研究成果を政策形成プロセスへ提供する。 <p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業終了後を見据え、教育実施上の課題に関し他拠点からの拠点間連携の要望や必要性がある点についてその実現に向けて協力し、教育面での他拠点との相互補完的・互恵的な協力関係の構築に努める。 ・ サマーキャンプに GiST 教員及び学生が参加する。 ・ GiST セミナーを開催するとともに、ウェブサイトや SNS 等のネットワーキング・情報提供の場を整備・拡充する。
	達成目標	<p>(1) 人材育成</p> <p>人材育成について、博士課程及び修士課程の教育プログラム、「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を実施するとともにサマーキャンプの実施に貢献し、各年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受入数：博士 2～3 名、修士 3～5 名 ・ 修了数：博士 1～2 名、修士 3～5 名、 ・ 短期プログラム受講生数：15 名程度 ・ サマーキャンプへの GRIPS からの参加学生数 5～8 名 <p>(2) 研究・基盤</p> <p>研究・基盤について、外部からの研究費を得て研究を実施することを目標とし、各年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部資金（科研費、委託研究費等(新規+継続)) 件数：2～3 件程度

		<p>(3) 共進化 共進化について、共進化実現プログラムの後継プログラムのプロジェクトの研究を実施することを目標とし、各年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクト（件数）：2～3件
		<p>(4) ネットワーキング ネットワーキングについて、サマーキャンプへの参加、GiSTセミナーの開催を目標とし、各年度において以下の達成を目指す。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サマーキャンプへの GiST からの参加学生数 5～8名程度（注（1）と同じ） ・ サマーキャンプへの GiST からの参加教員数 3～5名程度 ・ GiST セミナー開催回数：2～3回程度 ・ 修了生の修了生ネットワークへの参加者数

8. 平成 23 年度構想調書方針からの目標の修正・追加等

--